第 30 回 史料保存利用問題シンポジウム

危機にある「戦争関連資料」

-歴史的文化遺産として残すために-

日 時：2025 年 6 月 28 日(土)　13：30～17：30

会 場：一橋大学東 2 号館 2201 教室（オンライン併用）

〈参加費無料／先着順受付〉オンライン参加者は事前申込／会場来場者は事前申込不要

事前申込はこちらから

https://keio-univ.zoom.us/meeting/register/npQjt6KTTsuu7kOkOFfLMg

総合司会：大橋 幸泰（日本学術会議会員　早稲田大学教授）

開会挨拶：若尾 政希（日本歴史学協会委員長　一橋大学名誉教授）

問題提起

東山　京子（中京大学社会科学研究所研究員）

『戦争関連資料』の保存状況について

報　告

山辺　昌彦（公益財団法人政治経済研究所主任研究員）

『戦後 80 年』で求められること―平和博物館の経緯と課題―

檜山　幸夫（中京大学名誉教授）

歴史資料としての戦争記念碑について

鈴木　淳（東京大学大学院教授）

国史跡『陸軍板橋火薬製造所跡』の保存と活用

手島　仁（群馬地域学研究所代表理事）

前橋空襲と復興資料館開館について

パネルディスカッション

パネリスト：東山京子／山辺昌彦／檜山幸夫／鈴木　淳／手島　仁

司会：新井浩文（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

吉田政博（日本歴史学協会文化財保護特別委員会幹事）

閉会挨拶：松本　直子（日本学術会議会員　岡山大学教授）

主催：日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会

日本学術会議史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会

後援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会・日本アーカイブズ学会・日本考古学協会